

アコヤガイモニタリング調査結果概要（令和元年5月23日:調査日）

◎2019年5月29日

1 調査結果の概要

- ・肉質に関して、健康度の指標となるグリコーゲン含量は北部で3%を下回っており、全体的にも昨年に比べて低い値であった。
- ・貝柱の赤変個体は認められず、赤変度合を示すa値は昨年と同程度であった。
- ・水温の上昇に伴って貝の活性が上がり、貝が痩せてくる可能性があることから、飼育管理には十分注意してください。

2 調査結果一覧

育成漁場※1	貝の種類	グリコーゲン (%)	a 値 (平均値)	備考 赤変個体数 (測定数20個)
南部	日本貝	6.3(9.9)	-1.0(-1.0)	赤変個体数0個
南部	日中交雑貝※2	5.2(11.1)	-0.8(-1.4)	赤変個体数0個
中部①	日中交雑貝	6.8(12.4)	-0.6(-0.8)	赤変個体数0個
中部②	日中交雑貝	6.8(11.0)	-0.8(-0.9)	赤変個体数0個
北部	日中交雑貝	2.3(6.1)	-0.4(-0.3)	赤変個体数0個
平均		5.7(10.4)	-0.8(-0.9)	

* 1 南部：由良半島以南 中部：由良半島から三浦半島 北部：三浦半島以北

* 2 日中交雑貝：日本貝と中国貝の交雑貝

() 内は昨年同月の数値

3 調査方法

5月から11月まで月1回（おおよそ第3週）、各漁場・種類毎に20貝を分析。

4 測定項目および判断指標

- ・グリコーゲン : アコヤガイの栄養の蓄積状況を示す指標で、数値が高いほど健康状態が良好。

- ・ a 値 : 閉殻筋(貝柱)の赤色度を示す指標で、数値が高いほど赤みが強い。
赤みを帯びた黄色で3、明らかな赤色で5以上。
-

アコヤガイモニタリング調査結果概要（令和元年6月13日:調査日）

◎2019年6月18日

1 調査結果の概要

- ・肉質に関して、健康度の指標となるグリコーゲン含量は、全ての海域で3%を上回っており、概ね良好と判断された。
- ・貝柱の赤変個体は認められず、赤変度合を示すa値は昨年と同程度であった。
- ・今後、各漁場において水温上昇等の海況の変化によっては、貝の活力が落ちてくることも考えられますので、貝の管理には注意してください。

2 調査結果一覧

育成漁場※1	貝の種類	グリコーゲン (%)	a 値 (平均値)	備考 赤変個体数 (測定数20個)
南部	日本貝	5.6(9.8)	-0.5(-1.0)	赤変個体数0個
南部	日中交雑貝※2	6.8(10.2)	-0.6(-1.1)	赤変個体数0個
中部①	日中交雑貝	8.4(15.4)	-0.8(-0.9)	赤変個体数0個
中部②	日中交雑貝	8.4(14.1)	-0.6(-0.7)	赤変個体数0個
北部	日中交雑貝	4.3(8.5)	-0.3(-0.8)	赤変個体数0個
平均		6.9(11.8)	-0.6(-0.9)	

* 1 南部：由良半島以南 中部：由良半島から三浦半島 北部：三浦半島以北

* 2 日中交雑貝：日本貝と中国貝の交雑貝

() 内は昨年同月の数値

3 調査方法

5月から11月まで月1回（概ね第3週）、各漁場・種類毎に20貝を分析。

4 測定項目および判断指標

- ・グリコーゲン : アコヤガイの栄養の蓄積状況を示す指標で、数値が高いほど健康状態が良好。

- ・ a 値 : 閉殻筋(貝柱)の赤色度を示す指標で、数値が高いほど赤みが強い。
赤みを帯びた黄色で3、明らかな赤色で5以上。
-

アコヤガイモニタリング調査結果概要（令和元年7月18日:調査日）

◎2019年7月24日

1 調査結果の概要

- ・肉質に関して、健康度の指標となるグリコーゲン含量は、平均値が昨年より低く、一部の海域で3%を下回っていることから、栄養状態は昨年と比べて概ね低いと判断された。
- ・貝柱の赤変個体は南部海域で2個体確認された。赤変度合を示すa値は昨年より高かった。
- ・今後、高水温が続くことで、赤変病が進行するとともに貝の活力が落ちてくることから考えられますので、貝の管理には十分注意してください。

2 調査結果一覧

育成漁場※1	貝の種類	グリコーゲン (%)	a 値 (平均値)	備考 赤変個体数 (測定数20個)
南部	日本貝	2.6(5.4)	1.3(-0.9)	赤変個体数1個
南部	日中交雑貝※2	4.6(7.3)	1.3(-0.3)	赤変個体数1個
中部①	日中交雑貝	6.9(4.9)	-0.9(-0.8)	赤変個体数0個
中部②	日中交雑貝	3.9(7.4)	0.0(-0.9)	赤変個体数0個
北部	日中交雑貝	2.3(5.0)	-0.5(-0.6)	赤変個体数0個
平均		4.1(6.0)	0.2(-0.7)	

* 1 南部：由良半島以南 中部：由良半島から三浦半島 北部：三浦半島以北

* 2 日中交雑貝：日本貝と中国貝の交雑貝

() 内は昨年同月の数値

3 調査方法

5月から11月まで月1回（概ね第3週）、各漁場・種類毎に20貝を分析。

4 測定項目および判断指標

- ・グリコーゲン : アコヤガイの栄養の蓄積状況を示す指標で、数値が高いほど健康状態が良好。
 - ・ a 値 : 閉殻筋（貝柱）の赤色度を示す指標で、数値が高いほど赤みが強い。
赤みを帯びた黄色で3、明らかな赤色で5以上。
-

アコヤガイモニタリング調査結果概要（令和元年8月22日:調査日）

◎2019年8月23日

1 調査結果の概要

- ・肉質に関して、健康度の指標となるグリコーゲン含量は平均値が昨年より低く、一部の海域で3%を下回っていることから、栄養状態は昨年と比べて低いと判断された。
- ・貝柱の赤変個体は認められず、赤変度合を示すa値は昨年と同程度であった。
- ・前回に続き、今回の調査でも貝の栄養状態の低下が確認されましたので、貝の管理には十分注意してください。

2 調査結果一覧

育成漁場※1	貝の種類	グリコーゲン (%)	a 値 (平均値)	備考 赤変個体数 (測定数20個)
南部	日本貝	2.3(3.3)	0.4(0.8)	赤変個体数0個
南部	日中交雑貝※2	3.3(4.5)	-0.1(0.5)	赤変個体数0個
中部①	日中交雑貝	4.2(3.8)	0.1(-0.6)	赤変個体数0個
中部②	日中交雑貝	2.7(4.7)	0.4(-0.2)	赤変個体数0個
北部	日中交雑貝	2.7(4.5)	-0.6(0.0)	赤変個体数0個
平均		3.0(4.1)	0.0(0.1)	

* 1 南部：由良半島以南 中部：由良半島から三浦半島 北部：三浦半島以北

* 2 日中交雑貝：日本貝と中国貝の交雑貝

() 内は昨年同月の数値

3 調査方法

5月から11月まで月1回（概ね第3週）、各漁場・種類毎に20貝を分析。

4 測定項目および判断指標

- ・グリコーゲン : アコヤガイの栄養の蓄積状況を示す指標で、数値が高いほど健康状態が良好。

- ・ a 値 : 閉殻筋(貝柱)の赤色度を示す指標で、数値が高いほど赤みが強い。
赤みを帯びた黄色で3、明らかな赤色で5以上。
-

アコヤガイモニタリング調査結果概要（令和元年9月20日:調査日）

◎2019年9月25日

1 調査結果の概要

- ・肉質に関して、健康度の指標となるグリコーゲン含量は平均値が昨年より低く、ほとんどの海域で3%を下回っていることから、栄養状態は昨年と比べて低いと判断された。
- ・貝柱の赤変個体は4個確認された、赤変度合を示すa値は一部の海域で昨年と比べて高かった。
- ・今回の調査でも貝の栄養状態の低下が確認されたほか、目視で外套膜の萎縮が認められる貝もあることから、貝の管理にはこれまで以上の注意をお願い致します。

2 調査結果一覧

育成漁場※1	貝の種類	グリコーゲン (%)	a 値 (平均値)	備考 赤変個体数 (測定数20個)
南部	日本貝	2.2(2.6)	0.4(0.9)	赤変個体数0個
南部	日中交雑貝※2	2.8(3.3)	0.1(0.0)	赤変個体数0個
中部①	日中交雑貝	4.3(4.7)	1.1(-0.6)	赤変個体数3個
中部②	日中交雑貝	2.1(4.0)	1.0(0.2)	赤変個体数1個
北部	日中交雑貝	2.5(5.7)	-0.7(-0.2)	赤変個体数0個
平均		2.8(4.0)	0.4(0.1)	

* 1 南部：由良半島以南 中部：由良半島から三浦半島 北部：三浦半島以北

* 2 日中交雑貝：日本貝と中国貝の交雑貝

() 内は昨年同月の数値

3 調査方法

5月から11月まで月1回（概ね第3週）、各漁場・種類毎に20貝を分析。

4 測定項目および判断指標

- ・グリコーゲン : アコヤガイの栄養の蓄積状況を示す指標で、数値が高いほど健康状態が良好。
 - ・ a 値 : 閉殻筋(貝柱)の赤色度を示す指標で、数値が高いほど赤みが強い。
赤みを帯びた黄色で3、明らかな赤色で5以上。
-